



瀧小だより

上越市立大瀧町小学校

E-mail ohgata-e@jorne.or.jp

令和4年6月



酒米「越神楽」の田植え

6月8日、6年生は米山のふもと、柿崎区水野で酒米「越神楽」の田植えをしました。ここは、当校の元PTA会長が管理する水田で、元会長と「かたふね」の蔵元竹田酒造店の御尽力で実現した体験学習です。秋に収穫した米から酒を醸し、子供たちが20歳になったら届けられるという夢のある企画です。

この学年では、昨年からの総合的な学習の時間で地域づくりをテーマにしています。地元の竹田酒造店からこのお話をいただいた時に、酒造りの文化を体験的に学ぶことで、総合学習がよりダイナミックに展開できるのではないかと考えました。

地の縁、人との縁で実現した地元の蔵元とのコラボレーションです。今後、互いのアイデアを生かしながら、子供たちは日本酒や酒粕を使った料理を学んだり、多くの杜氏を輩出した頸北の酒造りの文化や歴史を調べたりしていきます。そして、これまでの地域学習のゴールとして学習成果を地域に発信するなど、自分たちのふるさとのために役立てられることを目指しています。

HP 随時更新中



マスクを外せる場合も・・・



新型コロナウイルスの感染者数が減少傾向にあり、熱中症予防のためにも、下記の場合はマスク着用の必要がないという対応になりました。その場合は、学校でも子供たちに声を掛けていますが、外すことは個々の判断に任せています。

【屋外】・人との距離が確保できる場合

・人との距離が確保できなくても、会話をほとんど行わないような場合
例：離れて行う運動や移動、密にならない遊び、自然観察 等

【屋内】・人との距離が確保でき、会話をほとんど行わないような場合

例：個人で行う読書や調べ学習

【学校生活】プールや屋内の体育館等を含め、体育授業や運動部活動、登下校

しかし、チャレンジ運動会の徒競走やリレーでも、マスクをしたまま走っている子供が多くいたように、長期に渡るマスク生活によって、マスクを着けていることに抵抗感を感じていない子供もいるようです。また、報道等で紹介されているように、マスクが顔の一部（服のような感覚、「顔パンツ」という表現も）で、もう人前では外せないという人もいます。賛否両論があると思いますが、強制にならないよう相手の意思を尊重すべきなのでしょう。

更に、外してもよい場面で、マスクをしている（していない）からと、非難したり悪口を言ったりしない、同調圧力（無言の強制力をもつ集団の雰囲気）をかけることのない社会でありたいものです。

【3年】 初めての毛筆

3年生になると、毛筆を学習します。当校では例年、その最初の時間に校区の書道教室の先生から、指導していただいています。

先生は、
「初めてだからこそ、毛筆の楽しさを味わってほしい。」
とおっしゃいます。

難しい技能的なことではなく、右上の写真のように筆の穂先を意識して渦巻を書いたり、横画を書いたり。子供たちは、墨が付いた筆に緊張しつつ真剣なまなざしで紙に向かっていました。

最後に、好きな文字を大きく書いて、あっという間の1時間の毛筆入門学習を終えました。

